



姫路東高校 SSH生徒研究発表会を行いました

1月20日(木)、本校体育館をメイン会場としてにて「姫路東高校 SSH 生徒研究発表会」を行い、午前は講演を聴き、その後1年次生徒、2年次理系生徒の研究をポスター発表しました。

○ 講演「実りあるプレゼンテーションに向けて」

兵庫県立大学大学院の川村教一教授から、1年次生徒・2年次理系生徒を対象に、Future Lab EAST から ZOOM による講演をしていただきました。科学者にとってのプレゼンテーションのあり方や、何を考えて発表を聴くか、などについてご講演いただきました。多くの生徒にとって「質問することは礼儀である」という言葉が印象に残ったようで、その後のポスター発表の質疑応答では、早速、活発な質疑応答がなされていました。



講演の様子



○ 生徒研究発表会(ポスター発表)

1年次生徒にとってはこれまでの探究活動の集大成の発表、2年次理系生徒にとっては来年度の夏にある最終発表に向けての中間発表でした。9月の中間発表会と同様、活動班をA・Bの2グループに分け、グループごとに3回の発表時間を設定して、8分間の発表+4分間の質疑応答を行いました。また、2年次文系生徒も、発表の聴講・質疑応答で参加しました。



ポスター発表の様子

発表後は、神戸大学アドミッションセンター特任准教授の進藤明彦先生から講評をいただきました。

この経験を、Girl's Expo with Science Ethics や来年度の探究活動にいかしましょう！



来賓の先生方



進藤先生から講評をいただきました

～ 生徒の感想（一部抜粋）～

（講演「実りあるプレゼンテーションに向けて」）

- 今まで「質問をする＝理解できませんでした」という気がしていたので、質問をすることに気が引けていましたが、講演を聞いて、しっかり質問内容を考えようと思えた。1年次の研究発表の際、どこのグループでも質問をすることができ、自分が不思議に思ったことを確認することができた。また、自分たちの発表の時も予想以上に深い質問がきて、有意義だった。
- 今回の講演は、どのように質問をすれば良いかというものでしたが、僕はプレゼンにはどのような内容が必要かという話のようにも思えました。僕の班は研究の動機と目的が不明瞭だったなという反省点があります。次の発表では、この内容を思い出して準備をしたいと思います。

（ポスター発表）

- 放課後に残ったり、冬休み中も家のパソコンでポスターを作成したり、学校の授業外での活動も多かったけれど、その分満足のいくポスターを作れました。また、班のメンバーとの話し合いを通して自分になかった考えを取り入れることができ、発表から質疑応答まで自分たちの考えをしっかりと述べる事が出来て良かったと思います。来年も今年の活動を通して得たものを活かして活動したいです。（1年）
- 2年次の先輩方の発表を聞いて発表構成や質疑応答など、すごく参考になりました。また、自分たちの発表での質疑応答から、どのような所を工夫したらもっと思ったように進んだのか考えることができ、いい発表会になったと思います。先輩方からの質疑応答では、自分たちが想定していない質問や自分たちの知識よりも詳しい意見をいただいたので、もっとしっかり対策をしようと思いました。（1年）
- 自分達は何を研究して何を明らかにしたいのかは分かっているが、初めて発表を聞く人への配慮が足りず対応できなかった。質問を受けて、説明すればするほど自分でも何を言っているのか分からなくなることもあった。アドバイスシートでは高く評価して下さる人達も多かったが、アドバイスも沢山受けた。来年度の本発表では、いい発表ができるよう努めたい。（2年）
- 1年次生徒の発表も聞きましたが、すごく完成度が高く、研究が論理的に進められていてとても驚きました。発表時間も8分に近く、よく練られた文章になっていたと思いました。自分の発表では、大学の先生方からもたくさん意見をいただき、新しい発想も生まれたので、これからは活かしていきたいです。（2年）

○ SSH 第2回運営指導委員会

生徒研究発表会の後、令和3年度第2回SSH運営指導委員会を開催しました。今年度の取組みと成果報告、今後の取組みについて、運営指導委員の先生方からご意見、ご指導をいただきました。



第2回SSH運営指導委員会の様子